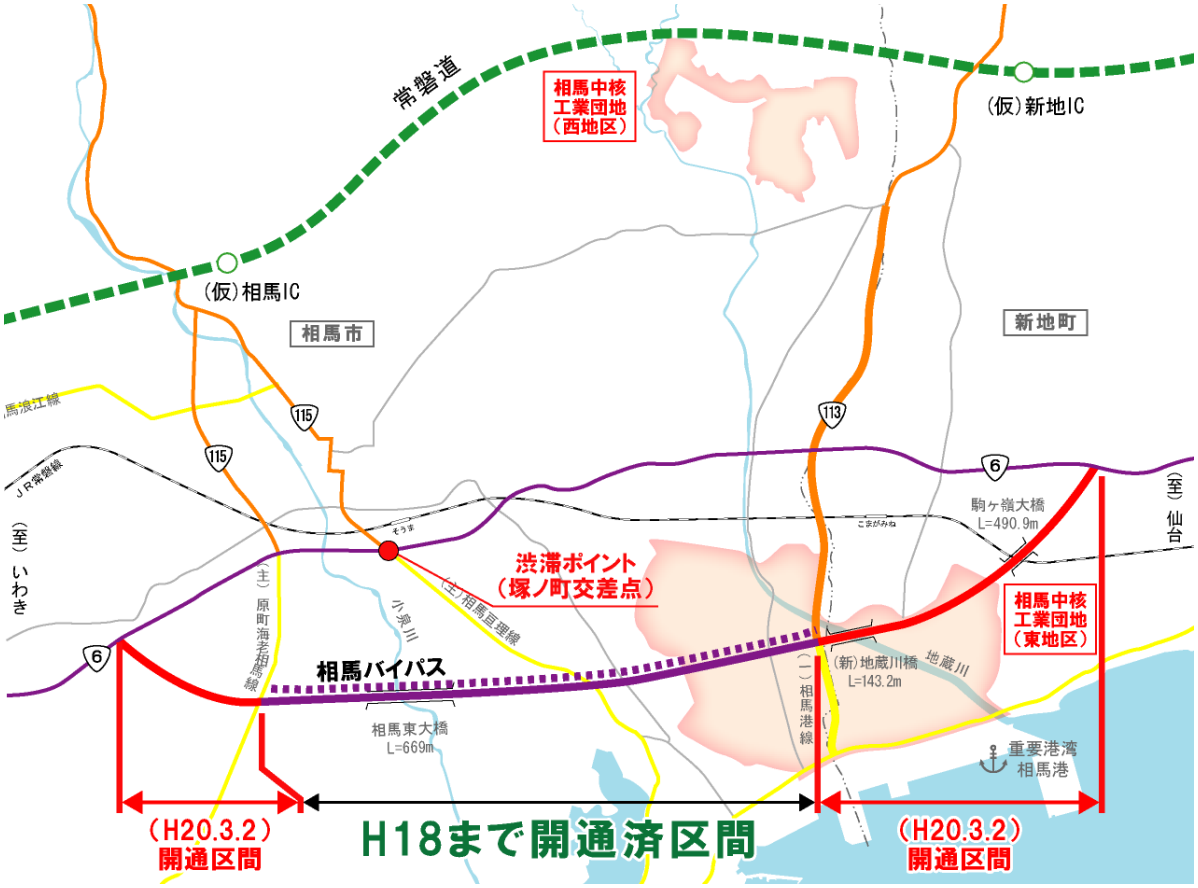
相馬バイパス位置図



整備効果　渋滞が解消

・バイパスに並行する旧国道の塚ノ町交差点の朝ピーク時（下り）の約1,400mの渋滞が解消され、走行速度も約２倍に向上



整備効果　交通事故が減少

・バイパスに並行する旧国道の事故件数が約５割減少及び死傷者数が約６割削減　（事故件数：27→14件、死傷者数：37→16人）

・特に、渋滞に起因すると思われる追突事故が約７割削減（19件→6件）



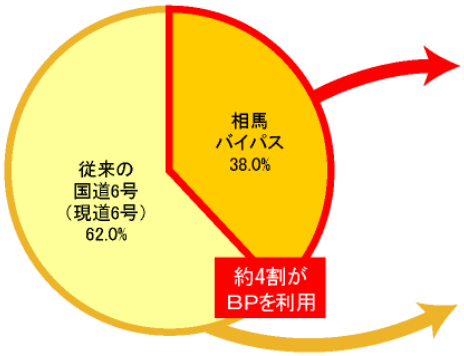
整備効果　道路利用者の利便性が向上

- 道路利用者にアンケート調査を実施（有効回答数：326件）

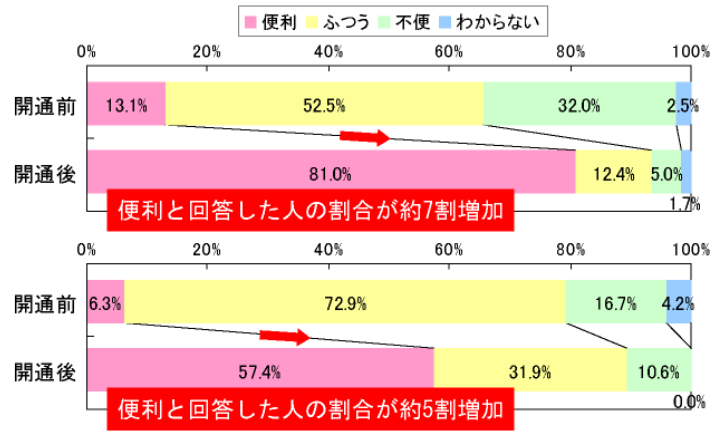
【アンケート結果】

- 道路利用者の約4割が相馬バイパスを利用
- 相馬バイパスが全線開通したことで、「便利」と回答した人の割合が約5～7割増加
- 特に、通過時間の短縮やイライラの軽減などの点で利便性が向上
- 救急現場からは、時間短縮（搬送中及び次の搬送への準備）、搬送患者への負担軽減などの効果が挙がっている

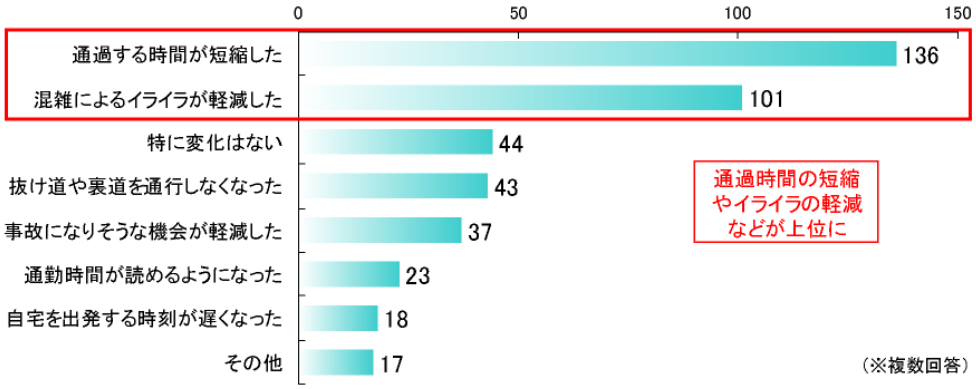
【利用頻度】



【利便性の変化】



【バイパス開通により便利になった点】



（道路利用者アンケート調査：相馬市役所、相馬中核工業団地通勤者、道の駅「そうま」、道の駅「南相馬」来訪者等に実施）

【救急搬送現場の声】



- 新地町から南相馬市の病院へ搬送する場合など、相馬市街地を抜けないで相馬バイパスを通行して搬送できるため搬送時間が短縮した。
- 南相馬市から仙台方面の病院に搬送した帰路は一般道路になるため、バイパスによる時間短縮効果が大きく、次の救急搬送に備えられる。
- バイパスは平面線形が良く路面が平坦であるため、搬送患者への負担が少なくなって良かった。

（相馬地方広域消防本部への聞き込み結果）

【道路利用者の声】



（50代男性）

- 国道6号（現道）には、信号交差点や大型店舗（ジャスコ等）の出入があるほか、路上工事も行われており、時間がかかることが多かった。相馬バイパス利用することで、20分程度早くなった。



（40代女性）

- 毎朝、7時半頃に磯部の自宅から市内の職場に通勤している。全線開通前には、約30分かかっていたが、現在は約20分で到着できるようになった。



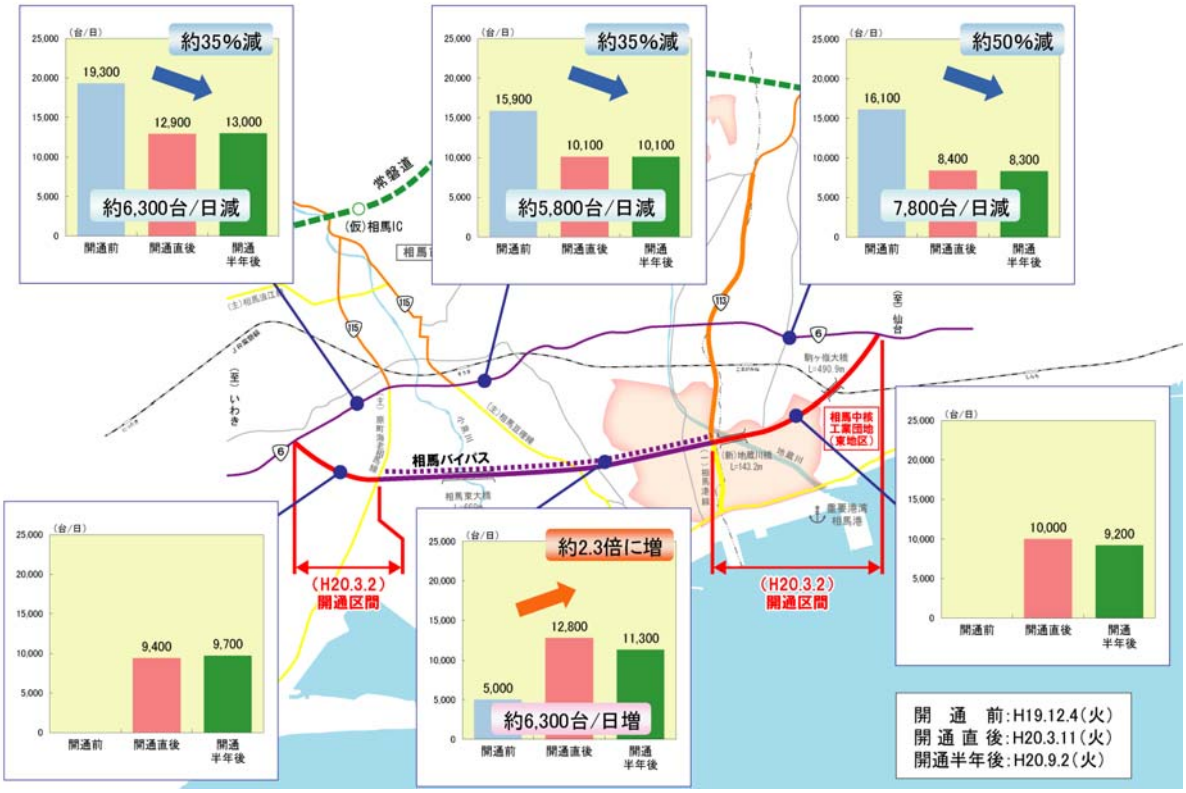
（50代男性）

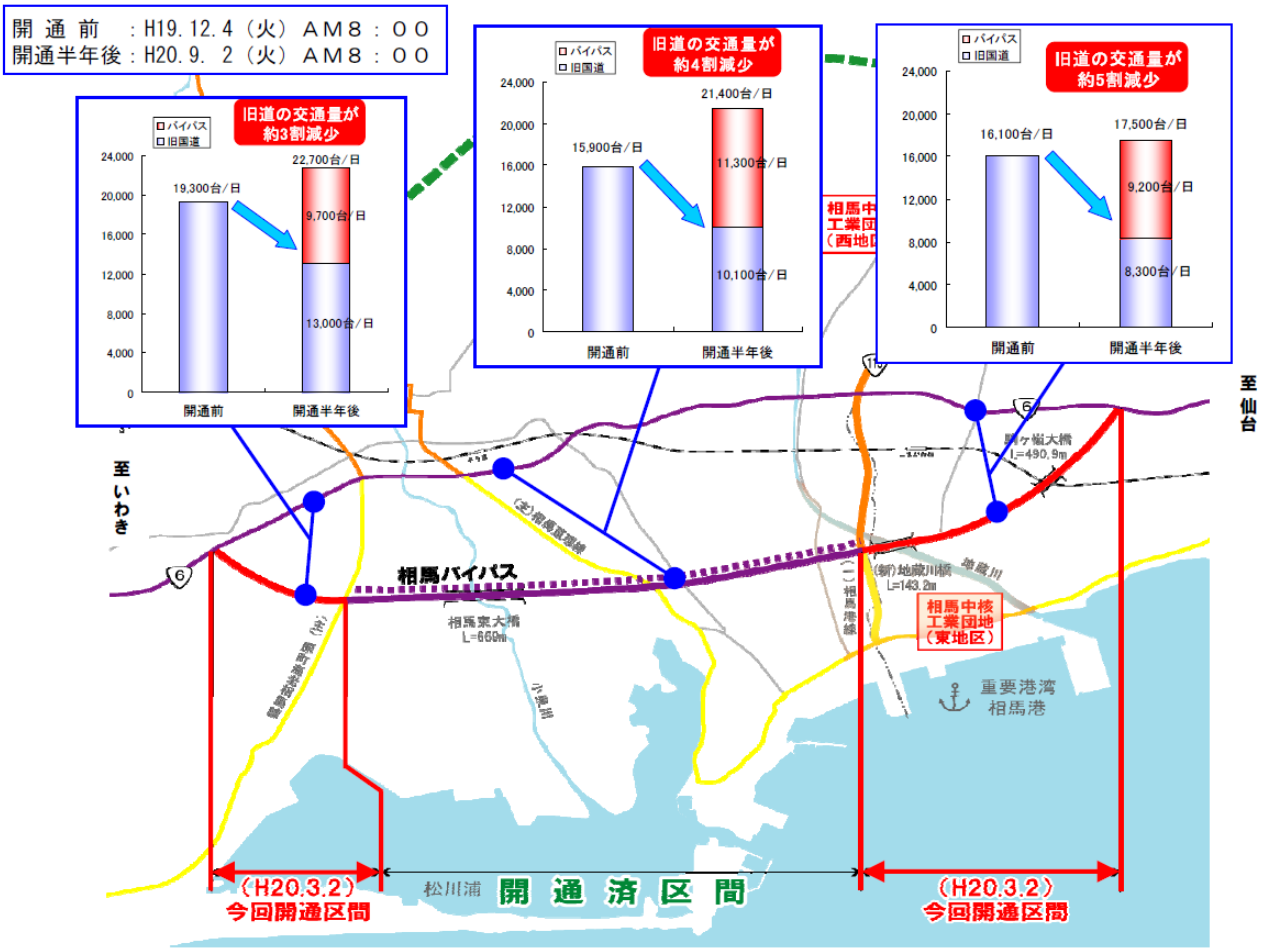
- 程田の自宅から仙台方面へ通勤しています。駒ヶ嶺交差点まで30分～40分かかっていたのが17分程度になった。

（道路利用者アンケート調査：相馬市役所、相馬中核工業団地通勤者、道の駅「そうま」、道の駅「南相馬」来訪者等に実施）

【参考】　相馬バイパスの利用交通量が増加

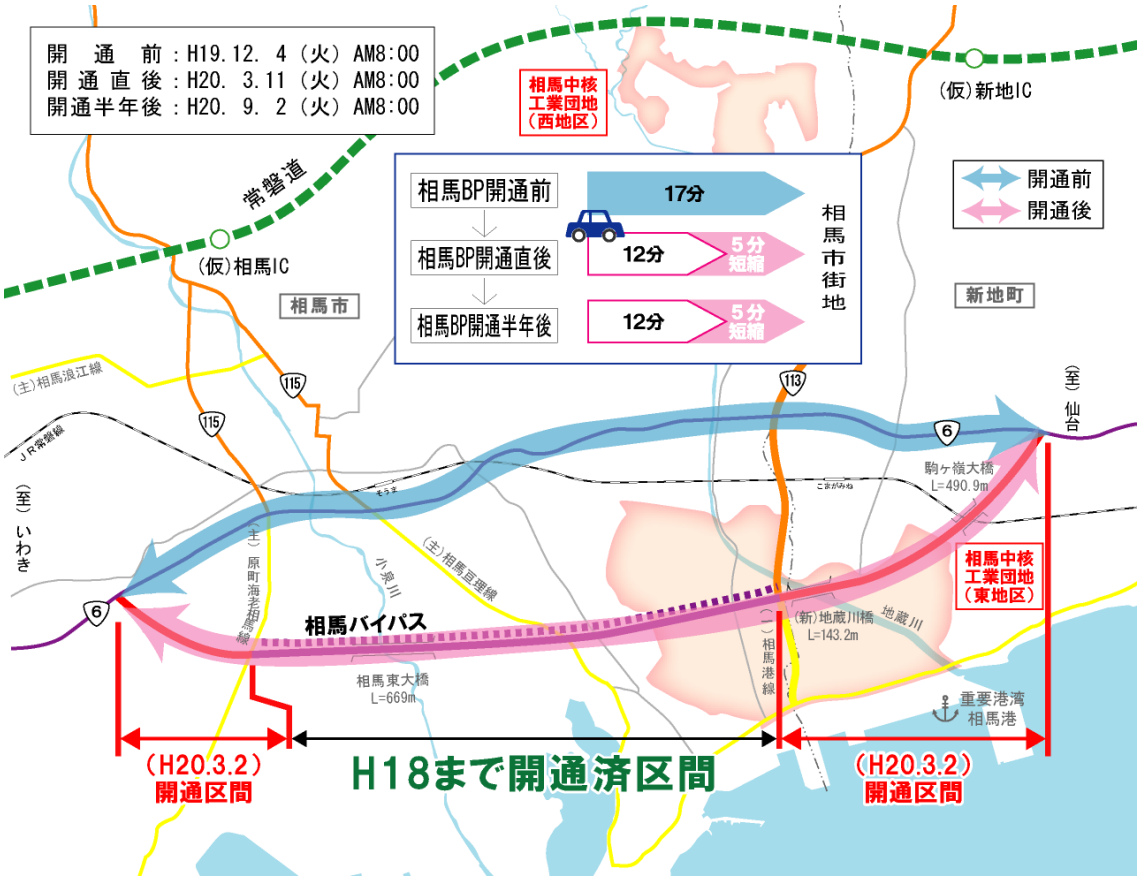
- 相馬バイパスは約11,300台/日の利用となり、約6,300台/日の利用が増加
- バイパスに並行する旧国道の交通量が約5,800台/日減少（約35%減少）
- バイパスに並行する旧国道の大型車の交通量が約3,500台/日減少（約90%減少）





【参考】　渋滞が解消し所用時間が短縮

・朝ピーク時（下り）に相馬市街地を通過するのにかかる時間が相馬バイパスを走行することで5分短縮（17分→12分）（計測区間：相馬市程田（そうましほどた）～新地町駒ヶ嶺（しんちまちこまがみね）L=約10km）



【参考】　沿道騒音が低減

・バイパスに並行する旧国道における騒音が低減しており、特に相馬市中野では夜間騒音レベルが9dB（66dB→57dB）低減）

